

天童市社会福祉協議会だより（社協だより）に掲載した、各学校での活動をご紹介します。ぜひヒントにしてみてください！

第一中学校 3年生
ブルーペイント

195号



青と白のペンキできれいに塗装し直した、「障がい者専用駐車区画」天童一中

「誰もが暮らしやすいまちに」

4団体協働でペイント

「障がい者専用駐車区画」を青と白のペンキで塗装する「青い空、白い雲プロジェクト」が10月20日、天童市立第一中学校で行われました。

この日は4団体から約50人が参加し、これまで車イスマークのみだった同校の区画を、一目でわかるよう青色で塗装し、マークを完成させました。

車イスユーザーが当区画の必要性や乗り降りの際の注意点を講話すると、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。生徒を代表して高嶋日鞠さんがあいさつし「誰もが安心して住みやすいまちになれば」と述べ、福祉の心を育みました。



196号

成生小学校 蔵増小学校
共同募金活動

192号



天童市立成生小学校の皆様

学校募金として、市内14校（小・中・高校生）の皆様より229,192円をお寄せいただきました。



天童市立蔵増小学校の皆様

学校募金として、市内11校（小・中・高校生）の皆様より165,303円をお寄せいただきました。



長岡小学校 5年生
手話体験

福祉体験学習

自分の名前を手話で伝えてみよう!!

6月19日と7月3日に長岡小学校の5年1組の児童が手話の体験学習を行いました。「手話サークルしゅわわ」が講師を務め、基本的な挨拶や自己紹介などを学びました！講師にフォローを受けながら、一人ひとり自己紹介を手話で表現できるようになりました。生徒からは「聴覚障がいのある講師の経験してきたことや子供の頃の話が聞きたい」「耳が聞こえない人の助けになりたい、聾学校で交流したい」と意見があがり、学びから自分たちにできる福祉活動につなげようとする想いが伝わってきました!!



194号

寺津小学校 5年生
世代間交流 (サロンにて)

伝統の手人形復活! いきいきサロンでお披露目

2月8日、寺津小学校の5年生7名が、寺津いきいきサロンにおいて「寺津手人形劇」を披露しました。明治22年から始まり、昭和28年に姿を消した「寺津手人形」。「伝統を復活させ、みんなを笑顔にしたい」との思いから令和2年より寺津手人形保存会などにも協力してもらい、活動を始めました。今年度は自分達で台本を考え、セリフも現代風に直しました。観劇した高齢者からは「とても面白かった。子ども達の頑張りに感動した。」との感想が聞かれました。



188号

山口小学校 5・6年生
ポッチャ体験

一球入魂!ポッチャ体験

1月18日、山口小学校5・6年生55名が、県障害者スポーツ指導者協会の指導のもと、ポッチャの体験学習を行いました。ヨーロッパで、脳性マヒや身障者に向けてできたスポーツで「究極のバリアフリースポーツ」との由来やルールを聞き、今回初めて体験した児童は、「すごく難しかった。でも白い球に近づけてどうやって投げようか考えながらすることができて楽しかった」と話していました。



188号

荒谷小学校 5・6年生
除雪ボランティア

「いつもありがとう(*^-^*)」

2月1日、荒谷小の5・6年生児童28名が除雪ボランティアを行いました。この活動は、雪掃きのお手伝いを通して、地域の方との交流を深め、地域のために働くことの喜びを味わおうというものです。荒谷小学校が主体となり、荒谷地域の民生児童委員や町内会等の協力を得て、実施されました。自宅の除雪を依頼した高齢者は、あっという間に無くなった雪に安堵しながら、訪れた児童との会話も楽しんでいました。



188号

市児童・生徒「福祉のこころ」実践校事業

「ふ・く・し」はおもしろい♡

みんなの気持ちを考える……
自分にできること……

市社協では、市内の小学校及び中学校が、福祉関係団体と協力して実施する福祉活動等に補助を行っています。福祉活動や福祉体験を通して、障がいがある方など、それぞれの立場の方の気持ちを理解しながら、「一人ひとりが助け合う気持ちの大切さ」や「自分には何ができるか」を考え、福祉は身近で、**おもしろい**と感じてもらえればとお手伝いしています。



R 5.9.7 千布小 障がい者等用駐車区画青色塗装
《講師》障がい者自立支援センターほつらいふ



R 5.9.27 高揃小 車いす体験
《講師》市社協



R 5.10.4 高揃小 手話体験
《講師》手話サークルしゅわわ



R 5.10.24 長岡小 ボッチャ体験
《講師》県パラスポーツ指導者協議会



R 5.11.8 寺津小車いす体験
《講師》市社協



R 5.12.17 山口小 ボッチャ体験
《講師》県パラスポーツ指導者協議会

第1弾

青い空・白い雲プロジェクト

始動!

障がい者等用駐車区画の青色塗装

「青い空・白い雲プロジェクト」って？

障がい者等用駐車区画の青色に塗装された部分を綺麗な「青い空」、白線で描かれた車イスマークを「白い雲」に見立てた造語であり、障害者専用駐車区画の普及・啓発を目指す活動です。



荒谷小5年生が初チャレンジ!

令和4年9月22日、同校5年生が障がい者等用の駐車区画の塗装にチャレンジしました。この活動は、舞鶴ライオンズクラブや荒谷地域社協からの協力のもと、障がい者自立生活支援センター「ほっとらいふ」(大石田町)を講師に招き、実現しました。

児童は、実際に車イスを使う方々から駐車区画を設置する意味などを直接教えてもらった後、ローラーやハケを持って、真剣に作業に取り組みました。これまで何もなかった小学校の入口付近のスペースに、綺麗な青色の駐車場が誕生しました。



障がい者等用駐車区画ってなに？

公共施設や商業施設の出入口付近にある車イスマークのペイントされた青色の駐車場のことです。移動に配慮を必要とする方々が安心して外出できるように支援するためのもので、車イスの方が乗降りしやすいように、一般的な駐車区画よりも広く設計され目立つように青く塗装されています。

どんな人が使えるの？

身体障がいや知的障がいのある方、高齢者、怪我や病気の方、妊産婦などが対象です。ただし、障がいの等級や要介護度などの細かい要件もあり、すべての方が対象になるわけではありません。利用する場合は、利用証の発行が必要です。詳しくは、山形県庁や村山保健所へお問い合わせください。

市社協では今後もこの活動を応援していきます!

共同募金活動

成生小学校



こんなおたよりを作って、全校児童に募金を呼びかけてくれました!

学校募金として、市内12校(小・中・高校生)の皆様より127,407円をお寄せいただきました。

環境ボランティア委員会だより

赤い羽根共同募金について

- 1.めあて
赤い羽根募金を通してみんながくらしやすい町づくりに協力しよう
- 2.提案理由
集まったお金は一人暮らしの人、障害がある人、子育て中の親の人たちなどの生活に困っている人たちを支えたり、学業の道具など、身近なものにも使われたりするので、自分たちの手でより良い町づくりに協力したいと考えたからです。
- 3.日時
令和4年11月21日(月)~25日(金)まで
朝8時15分に環境ボランティア委員の担当が各クラスにお金を集めに行きます。
- 4.金額 一人 100円まで

募金にご協力よろしくお願ひします!



津山小学校



天童南部小学校



天童高校



千布小学校



共に支え合おう

安心して心豊かに暮らせる

福祉のまち天童

社協

天童市社会福祉協議会

だより

3月

Vol.184

地域ぐるみ「除雪まかせて」

天童北部小6年生ボランティア活動

除雪が困難な一人暮らしの高齢者等を支援しようと、市立天童北部小学校の6年生65人が雪かきボランティアに汗を流しました。

児童たちは対象世帯を訪れると、家や周辺道路にたまった雪をスコップやスノーダンプで手際よく除雪し、歩きやすい路面にしました。作業を見守った方は「雪がいっぱいで困っていた。本当に助かりました」と笑顔。この事業は天童北部地域社協や地区の民生児童委員、町内会などの協力のもと、同校の総合学習の一環として実施され、1月から2月の期間に合計15世帯の除雪を行いました。

Contents

- 赤い羽根共同募金運動へのお礼 P.2・P.3
- 新型コロナウイルス感染症自宅療養者等への食料品等 P.4
- 除雪ボランティア P.5
- 天童市生活自立支援センター
福祉サービス利用援助事業のご案内 P.6
- 天童の歩(ふ)くし出前講座 P.7
- いまこそ元気なからだをつくりましょう P.8

※社協は「社会福祉協議会」の略称です



熱心にスコップで除雪する天童北部小の児童



作業前に全員で記念撮影＝天童北部小(2022年2月8日)



社協

天童市社会福祉協議会

だより

10月

Vol.182

パラスポーツに親しんで 誰でも楽しめる「ボッチャ」体験

Contents

- 赤い羽根共同募金のお願い…………… P.2
- 居宅介護支援事業所
訪問介護サービス事業所の紹介…………… P.4
- 成年後見制度の紹介…………… P.6
- 市社協福祉出前講座の紹介…………… P.7
- いまこそ元気なからだをつくりましょう
社会福祉功労者表彰式生配信のご案内…………… P.8

※社協は「社会福祉協議会」の略称です



ルールやゲームの戦略を学びました

パラスポーツに興味を持ってもらい、福祉の心を育もうと市立山口小学校で7月20日、東京パラ五輪の正式種目「ボッチャ」の体験授業が行われました。この日は2、6年生の子どもたちが市スポーツセンター スポーツ指導員から試合の仕方を学ぶと、2チームに別れて対戦。ジャックボールと呼ばれる白球をめがけ、手持ちの球を交互に投げて寄せ、いかに近づけるかで勝敗が決まります。子どもたちは相手の球を弾いたり、邪魔するボールを置いたり、工夫しながらボッチャに親しんでいました。

体験を終えた子どもたちは「ルールは簡単だけど難しい。誰でもできるスポーツだと思った」「置きたい位置にボールを投げられなかった。楽しいからまたやりたい」と話していました。この授業は市社協の「福祉のこころ実践校事業」の一環で行われました。



笑顔でボッチャを楽しむ子どもたち